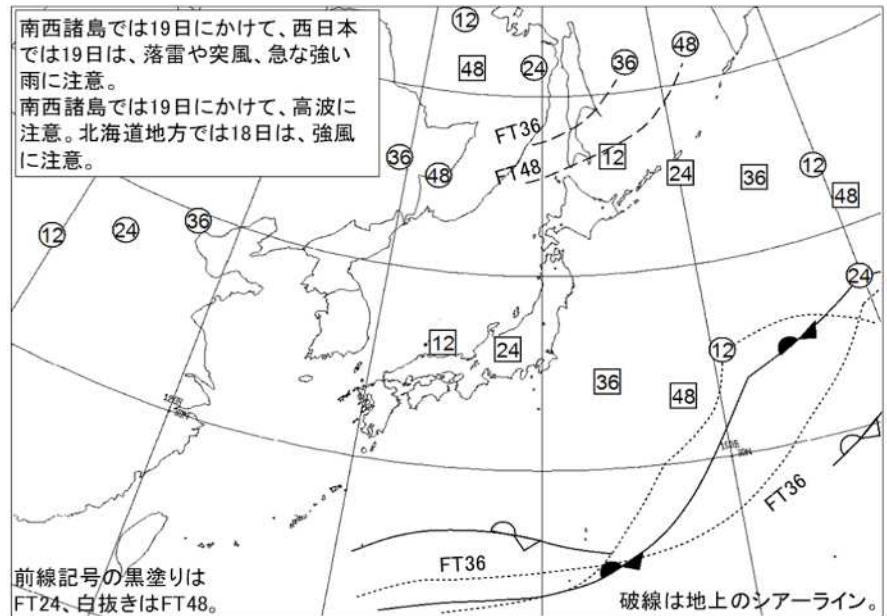


1. 実況上の着目点

- ① 日本海に高気圧があつてほとんど停滞。この高気圧は黄海にある500hPa 5880m付近の上層の高気圧に対応しており、本州付近は背の高い高気圧に覆われて、晴れている所が多い。
- ② 500hPa 5760m以下で-15℃以下の寒気を伴う寒冷渦が、伊豆諸島近海でほとんど停滞。寒冷渦周辺では強い雨を解析し、雷を検知。
- ③ 沖縄本島付近にも500hPa -12℃以下の寒気を伴った寒冷渦があつてほとんど停滞。周辺で対流雲が発達。雷を検知。



主要じょう乱解説図

- ④ 前線が日本の南から小笠原近海を通過して日本のはるか東にのび、前線と①項の日本海の高気圧との間で気圧の傾きがやや大きく、吹送距離の長い、やや強い東風の影響で波が高くなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は、上層の高気圧と共に東南東へ移動し、18日にかけて本州付近を覆う。背の高い高気圧に覆われ、下降流により大気中層は乾燥して対流活動が抑制されるため、日中は晴れて内陸を中心に気温が上がり、真夏日となる所がある。熱中症などの健康管理に留意。
- ② 1項②の寒冷渦は、次第にトラフとなって東へ進み、伊豆諸島から離れるが、1項③の寒冷渦は、18日にかけて南西諸島付近でほとんど停滞し、19日はゆっくりと北上する。上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる。南西諸島では17日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ③ 小笠原諸島では18日にかけて1項④の前線の近傍となり、強い雨が継続して降る可能性がある。小笠原諸島では18日にかけて、土砂災害、落雷や突風に留意。
- ④ 18日は、オホーツク海を低気圧が東北東進し、低気圧からのびる地上のシアーラインは、18日～19日にかけてサハリンから北海道地方付近を南東進する。シアーライン周辺では強い風が吹く所がある。北海道地方では18日は、強風に注意。
- ⑤ 日本の南の前線は18日以後は北上し、南西諸島や西日本には850hPa θ_e 336K以上の暖湿気が流入して大気の状態が不安定となる。南西諸島では18日～19日は、西日本では19日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ⑥ 1項④のやや強い風の持続や、2項⑤の前線の北上により、南西諸島では波が高くなる。南西諸島では19日にかけて、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間) : 多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで) : 奄美・沖縄3m。③ 高潮(明日まで) : 大潮の時期。西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。